

# 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」実行委員会

## 第 7 回 会 議

○ 会議概要	1
○ 委員等出席状況	4
○ 配布資料	
・「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」実行委員会第7回会議表紙及び次第	7
・報告第1号 平成21年度12月収支補正予算	9
・報告第2号 平成21年度3月収支補正予算	11
・議案第1号 平成22年度事業計画(案)	13
・議案第2号 平成22年度収支予算(案)	18
・資料5 「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」平成21年度プロデュース業務年間業務活動報告書	21
・資料5-1 「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」の取組について	45

(以下の配布資料の添付は、省略しています。)

・資料1	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」マスコットキャラクター募集について
・資料2	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」平成21年度の取組について(概要)
・資料2-1	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」座談会等開催実績及び今後の開催予定
・資料2-2	登録パートナーグループ一覧(H21年5月～平成22年2月登録分) ※市町別
・資料2-3	ファシリテーション研修(実績)
・資料2-4	平成21年度専門家派遣の派遣実績について
・資料2-5	平成21年度財政的支援の採択実績について
・資料2-6	拡大座談会など開催実績
・資料3	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」平成22年度実施計画案
・資料3-1	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」平成22年度実施計画案【概要版】
・資料4	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」平成21・22年度事業比較
・別冊資料	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」機関紙第6号
・別冊資料	「 <sup>うま</sup> 美し国おこし・三重」キックオフプロジェクト10のきずなストーリー

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」実行委員会 第7回会議概要

■ 日 時 平成22年3月25日(木) 13:30~15:45

■ 場 所 県庁講堂

■ 出席者 会長・副会長・委員35名中25名出席(内代理出席7名)、監事2名中1名出席、参与11名中5名出席(内代理出席3名)、合計31名の出席

■ 概 要

○ 報告第1号について

平成21年度12月収支補正予算についての専決処分の報告が行われ、承認されました。

○ 報告第2号について

平成21年度3月収支補正予算についての専決処分の報告が行われ、承認されました。

○ 議案第1号について

平成22年度事業計画(案)について、協議事項の平成22年度「美し国おこし・三重」実行委員会実施計画(案)とともに、原案どおり承認されました。

【議案第1号に係る質疑応答】

大塚委員 パートナーグループの具体的な活動に伴って経済的効果が出てくると思いますが、実施計画の目標・評価の項目に、経済的効果がありません。実行委員会委員に銀行や大学の関係者がいらっしゃるので、検証するシステムを検討してみてもいいでしょうか。

事務局 地域づくりに関して、経済的な効果を算出する方法が見出せていない状況ですが、良いご指摘だと思いますので、検討したいと思います。

齋藤副会長 1つ1つのグループが収益を上げる活動をする訳ではありませんが、県の予算を使った三重県を挙げてのプロジェクトですので、費用対効果という観点や経済効果が県の発展に必要だと思います。一度、関係者が集まって具体的に検討してみてもいいと思います。

辻代理 どのような視点からどう検討していくのか分からないですが、一度検討してみるのも良いと思います。

小林代理 イベント等の経済波及効果を算出することはできますが、今の段階では少し難しいという認識ですが、勉強させていただければと思います。

○ 議案第2号について

平成22年度収支予算(案)について、原案どおり承認されました。

【議案第2号に係る意見】

高橋（幸）委員 集落において稲作をしています。農業政策の変更により米粉の販売を行うことにしました。現在、米粉はパンに使用されていますが、県内の消費量が少ないため、新しい商品の開発や販路開拓など、この「美し国おこし・三重」の制度を活用して、宮本プロデューサーに相談させていただいています。丁寧に対応いただき、今後とも色々と相談させていただきたいと思います。

○ 協議事項について

「美し国おこし・三重」平成21年度プロデュース業務年間業務活動報告書及び同平成22年度業務委託契約について、報告及び協議を行いました。

協議の結果、平成22年度プロデュース業務については、引き続き有限会社Landa Associatesに委託することが承認されました。

【プロデュース業務契約の更新に係る意見】

前田委員 東紀州地域の青年たち、アクティブファーマーズの農業に関しては、関わっていただけて良かったと思います。

ただ、座談会でグループとお話していただくのは、良いことだとは思いますが、この「美し国おこし・三重」の取組を知っている人と知らない人の差が大変大きいので、食べ物に関する大きなイベントを実施していただき、認知度を上げるとともに、出店者の販路開拓を支援いただき、景気を少しでも良くして欲しいと思います。

また、実行委員会をいつも津で開催されますが、他の市町でも開催していただき、色んな地域の方が傍聴できるようにして欲しいと思います。

石谷委員 自分が行っている福祉事業との関係はなかなか見えなかったのですが、プロデューサーにクロスポイントという中間支援組織につないでいただいたことがきっかけで、商店街の活性化を含めた新しいプロジェクトを立ち上げることになりました。

支援メニューの専門家派遣では、障がい者にも役に立つ豚肉の加工に係る特許技術の方法を教えていただくなど、福祉の活動を税金負担に頼らずにやれるんじゃないかという希望を、今回のネットワークにより見出すことができ良かったと思っています。

大塚委員 「桑名の千羽鶴を広める会」におけるプロジェクトに対するプロデューサーの皆さんの活動を大変評価しています。

1つウィークポイントを挙げると、広報宣伝の分野だと思っていますので、充実を図っていただきたいと思います。

小泉委員 プロデューサーユニット4名の方が、座談会でこの1年間でお会いになった方の数は、これまで自分が会ってきた数よりも圧倒的に多いのではないかと思います。

今、この方々がいなくなるとこの取組の継続自体が困難になるのではないのでしょうか。

高橋（徹）委員 これだけ県内を動き回るとともに、お持ちの人脈を見せていただいて、地域づくりに必要な要素を持っていらっしやると感じました。今は掘り起こす時期で、掘り起こしたものをうまくまとめていけば凄いものになるのではと感じており、今年度1年間の活動の成果はかなり良い評価をしていいと思います。

浜辺委員 宮本プロデューサーの人脈には、驚嘆させられています。ようやく地域の方々が顔馴染みになってきていて、これから色々な効果が出てくると思います。

県内の色んなところに「あれ何？」というムーブメントが起こるような「のぼり」のようなものを是非作っていただきたいと思います。事業を起こすには、旗揚げが必要です。この旗印に仲間が集まってくるといふ象徴的なものになるのではないかと思います。

野呂会長 大塚委員、浜辺委員からは、広報に関するご意見を頂戴しましたので、反映していくためにいろいろと工夫をしていくことが大事になります。また、「文化力」に基づいて、自立・持続可能な地域づくりにつなげていく目標を考えれば、行ってすぐに「美し国」ができるという簡単なものではありませんので、継続が大事であるとともに、県民に呼びかけて、知っていただくだけではなく、参画していただけるような体制にもっていかねばならないと考えています。

皆さんから高い評価を頂いていることを確認できましたので、平成22年度も引き続いて有限会社 LandaAssociates にプロデュース業務を委託することにご異議ございませんか。拍手で承認していただきたいと思います。

(拍手により、承認)

「美し国おこし・三重」実行委員会第7回会議 委員等出席状況 (敬称略)

役職	所属・役職	名 前	代理出席者		出欠状況	
			所属・役職	名 前		
会長	三重県知事	野呂 昭彦			出席	
副会長	三重県市長会会長	木田 久主一			出席	
	三重県商工会議所連合会会長	齋藤 彰一			出席	
	三重県町村会会長	佐藤 均			出席	
	社団法人三重県観光連盟会長	森口 明好			出席	
	こころのふるさと三重を目指したイベント 基本構想 策定委員会委員長	若林 広幸			出席	
委員	NPO法人みどりの家理事長	石谷 由里			出席	
	株式会社第三銀行代表取締役頭取	伊藤 準一	経済研究所 主任研究員	小林 卓也		代理 出席
	株式会社百五銀行代表取締役頭取	上田 豪	法人サービス部 地域貢献課長	辻 篤		代理 出席
	国立大学法人三重大学学長	内田 淳正				欠席
	桑名の千羽鶴を広める会顧問	大塚 由良美			出席	
	三重県信用金庫協会会長	木村 功				欠席
	津市文化芸術団体連絡協議会理事	小泉 忠子			出席	
	近畿日本鉄道株式会社取締役社長	小林 哲也	鉄道事業本部企画統括部 営業企画部長	西崎 一		代理 出席
	三重県中小企業団体中央会会長	佐久間 裕之	事務局長	伊藤 良夫		代理 出席
	学校法人梅村学園三重中京大学学長	佐藤 昭			出席	
	三重県商工会連合会副会長	篠木 幸一			出席	
	NPO法人伊勢河崎まちづくり衆理事長	高橋 徹			出席	
	中日本高速道路株式会社代表取締役社長	高橋 文雄	名古屋支社 支社長	岩田 久志		代理 出席
	こころのふるさと三重を目指したイベント 基本構想策定委員会副委員長	高橋 幸照			出席	
	三重県農業協同組合中央会会長	田中 利宣				欠席
	三重県林業団体連絡協議会会長	田中 善彦				欠席
	株式会社三重銀行取締役頭取	種橋 潤治	株式会社三重銀総研 専務取締役調査部長	筒井 真		代理 出席
	三重県労働者福祉協議会会長	土森 弘和				欠席
	三重県漁業協同組合連合会代表理事会長	永富 洋一				欠席
	こころのふるさと三重を目指したイベント 基本構想策定委員会副委員長	南部 美智代				欠席
	NPO法人地産地消ネットワークみえ理事長	波多野 豪				欠席
	農事組合法人伊賀の里モクモク手づくりファーム 役員総合企画室キャプテン	浜辺 佳子			出席	
	速水林業代表	速水 亨				欠席
学校法人皇學館学長	伴 五十嗣郎				欠席	
学校法人享栄学園鈴鹿国際大学学長	堀 敬史	事務局長	米島 久雄		代理 出席	
鬼フェスタ実行委員会委員長	前田 衣代			出席		
学校法人暁学園四日市大学学長	宗村 南男			出席		
社会福祉法人三重県社会福祉協議会会長	森下 達也			出席		
三重交通株式会社常務取締役営業本部長	山谷 行雄			出席		

役職	所属・役職	名前	代理出席者		出欠状況	
			所属・役職	名前		
監事	三重県都市収入役・会計管理者協議会会長	谷 俊樹				欠席
	三重県会計管理者兼出納局長	山本 浩和			出席	
参与	株式会社JTB中部津支店支店長	浅井 学			出席	
	東海旅客鉄道株式会社取締役営業本部長	厚地 純夫				欠席
	社団法人全国旅行業協会三重県支部支部長	織田 貞生				欠席
	株式会社日本旅行執行役員中部営業本部本部長	高西 善一郎	津支店長	前田 隆広		代理出席
	三重県観光販売システムズ事務局長	小高 直弘				欠席
	三交旅行株式会社旅行営業本部 (旅行営業副本部長担当・特命担当) 取締役	白井 春吉			出席	
	株式会社農協観光名古屋オペレーションセンター センター長	坪川 祥宏				欠席
	近畿日本ツーリスト株式会社中部営業本部本部長	前田 公廣				欠席
	トップツアー株式会社中部国内旅行センター センター長	松井 信丈				欠席
	名鉄観光サービス株式会社常務取締役商品事業 本部長	三浦 芳紀	商品事業部 国内旅行部 副長	福井 佳代		代理出席
	株式会社ジェイアール東海ツアーズ 取締役中部営業部長	渡邊 禎男	販売促進課 課長	平野 清司		代理出席



「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」実行委員会

第 7 回 会 議

日 時 平成22年3月25日(木)

13:30~15:30

場 所 三重県庁 講堂



# 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」実行委員会

## 第 7 回 会 議 次 第

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 報告

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」マスコットキャラクター最優秀賞  
受賞作品について

### 4 議事

報告第 1 号 専決処分 (平成 21 年度 12 月収支補正予算について)

報告第 2 号 専決処分 (平成 21 年度 3 月収支補正予算について)

議案第 1 号 平成 22 年度事業計画 (案) について

議案第 2 号 平成 22 年度収支予算 (案) について

### 5 協議

1) 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」平成 22 年度実施計画 (案) について

2) 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」平成 21 年度プロデュース業務年間業  
務活動報告書および同平成 22 年度業務委託契約について

### 6 閉会

## 平成21年度12月収支補正予算

## 1 収入の部

(単位：千円)

項	目	当初予算額	補正予算額	補正後 予算額	摘要 (補正予算について)
負担金	負担金	140,440	△ 16,844	123,596	【内訳】 三重県 △16,844
雑入	雑入	0	0	0	【内訳】 預金利息
寄附金	寄附金	0	0	0	【内訳】 寄附金
計		<b>140,440</b>	<b>△ 16,844</b>	<b>123,596</b>	

## 2 支出の部

(単位：千円)

項	目	当初予算額	補正予算額	補正後 予算額	摘要 (補正予算について)
総務費		<b>29,145</b>	<b>△ 2,096</b>	<b>27,049</b>	
	総務費	8,382	0	8,382	事務局経費
	企画運営費	20,763	△ 2,096	18,667	実行委員会等の開催等に要する経費 【内訳】 実行委員会等開催費 △ 251 総合プロデューサー設置費 △1,845
事業費		<b>111,295</b>	<b>△ 14,748</b>	<b>96,547</b>	
	育成支援費	17,853	41	17,894	パートナーグループの人材育成やネットワーク化 支援に要する経費 【内訳】 人材育成研修選定費 124 パートナーグループのネットワーク化支援費 △ 83
	地域支援費	47,423	△ 14,789	32,634	地域での美し国おこしの実施に要する経費 【内訳】 地域担当プロデューサー設置費 711 財政支援 △15,500
	催事費	29,250	0	29,250	オープニングの実施に要する経費
	広報宣伝費	16,769	0	16,769	広報宣伝の実施に要する経費
計		<b>140,440</b>	<b>△ 16,844</b>	<b>123,596</b>	

※支出の部における各項目間の予算流用は可とする。



## 平成21年度3月収支補正予算

## 1 収入の部

(単位：千円)

項	目	当初 予算額	12月 補正後 予算額	3月 補正 予算額	3月 補正後 予算額	摘要(補正予算について)
負担金	負担金	140,440	123,596	△ 19,255	104,341	【内訳】 三重県 △ 19,255
	「美し国おこし・ 三重」地域プロ ジェクト支援事 業費負担金	0	0	254	254	【内訳】 桑名市 254
雑入	雑入	0	0	0	0	【内訳】 預金利息
寄附金	寄附金	0	0	0	0	【内訳】 寄附金
計		140,440	123,596	△ 19,001	104,595	

## 2 支出の部

(単位：千円)

項	目	当初 予算額	12月 補正後 予算額	3月 補正 予算額	3月 補正後 予算額	摘要(補正予算について)
総務費		29,145	27,049	△ 4,383	22,666	
	総務費	8,382	8,382	△ 3,192	5,190	事務局経費
	企画運営費	20,763	18,667	△ 1,191	17,476	実行委員会等の開催等に要する経費 【内訳】 実行委員会等開催費 △1,191
事業費		<del>93,442</del> 111,295	96,547	△ 14,618	81,929	
	育成支援費	17,853	17,894	△ 2,716	15,178	パートナーグループの人材育成やネットワーク化 支援に要する経費 【内訳】 専門家派遣支援費 △2,704 ボランティア保険料 △12
	地域支援費	47,423	32,634	△ 7,722	24,912	地域での美し国おこしの実施に要する経費 【内訳】 パートナーグループ支援情報システ ム使用料 410 財政支援 △8,132
	催事費	29,250	29,250	△ 4,180	25,070	オープニングの実施に要する経費 【内訳】 オープニングⅠ △6,180 オープニングⅡ 4,500 オープニングⅢ △2,500
	広報宣伝費	16,769	16,769	0	16,769	広報宣伝の実施に要する経費
計		<del>122,587</del> 140,440	123,596	△ 19,001	104,595	

※支出の部における各項目間の予算流用は可とする。



## 平成22年度事業計画（案）

1 地域での<sup>うま</sup>美し国おこし

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組の根幹である、地域の皆さんによる地域をより良くしようとする取組の発掘や活動の促進を市町と連携し、引き続き次のように行います。

## (1) 座談会の開催

地域づくりに関心のある皆さんや、既に地域づくりに取り組まれている皆さんなど、地域をより良くしていこうという思いをもつ住民の皆さんが集まる場です。

地域の課題を明らかにし、解決できる活動を生み出すこと等を目的に350回程度開催する予定です。

## (2) パートナーグループ登録

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、住民の皆さんが主体となり自発的に地域をより良くしていこうとする活動を行うグループとして、実行委員会に登録して頂きます。

パートナーグループ登録いただくことで、財政的支援を除く、支援メニューの利用が可能となります。

平成22年度は、新規に200グループの登録を目標とします。

## (3) プロジェクト認定

財政的支援を受ける際には、プロジェクト企画を作成し、プロジェクト認定を受ける必要があります。

プロジェクト企画の作成にあたっては、プロデューサー等が支援を行います。

2 テーマに基づき全県的に取り組む<sup>うま</sup>美し国おこし

## (1) テーマプロジェクト

県内各地域のパートナーグループの活動の中から、共通する分野の活動を全県的に連携し、「テーマに基づき全県的に取り組む<sup>うま</sup>美し国おこし」に取り組めます。

平成22年度は、テーマを「海の命・森の命」と選定し、「海づくり」「森づくり」「川づくり」「里づくり」「自然の恵み」といったキーワード等に即したプロジェクト化（実施計画の策定）を行い、テーマプロジェクトを全県的に展開します。

テーマプロジェクトへの参画等により、新たなネットワークを生み、より連携の取れた活動として発展していくことが期待されるとともに、地域

外への情報発信にもつなげていきます。

### 3 担い手の育成と支援

地域づくりをとおして「新しい時代の公」の担い手となる人材の育成を目的として研修を行います。

#### (1) ファシリテーション研修

「メンバー同士の気持ちや意見の方向性をまとめたい」「地域づくりをサポートしたい」という皆さんを対象に研修を3地域で実施します。

研修修了者には、座談会やワールドカフェの進行、同研修の運営に参画していただくことも考えています。

【対象】 パートナーグループ、市民活動センターなどの中間支援組織の皆さん、市町や県の職員 20人/回

【内容】 3日間（基礎・演習・実地・振り返り）

#### (2) 広報・情報発信研修

「グループの活動をたくさんの人に知ってもらいたい」「一緒に活動してくれる仲間を増やしたい」という皆さんを対象に研修を3地域で実施します。研修では、「チラシ」「動画」等を活用した広報技術の習得に力を入れ、実践まで行います。

【対象】 パートナーグループ、市民活動センターなどの中間支援組織の皆さん、市町や県の職員 20人/回

【内容】 3日間（基礎・演習・実地）

#### (3) グループ育成

パートナーグループのニーズを把握し、必要に応じて専門家派遣の実施やネットワークコーディネーターによる連携支援を行います。

#### (4) 中間支援機能・組織

パートナーグループや地域づくり活動グループのリーダーを中心に中間支援組織及び機能のあり方のヒアリングを行い、ニーズや各分野の特性を把握するとともに、活動分野における三重県の中間支援組織、機能ごとの課題の整理や県内外の優良事例の収集、めざすべき方向性や支援策の検討を進めます。

#### (5) 専門家派遣

パートナーグループの活動を活性化し、課題の解決を支援するために、それぞれの案件にふさわしい専門家を派遣します。

#### (6) 広報・誘客、ネットワーク化支援

個々のパートナーグループの活動紹介や活動への参加・協力募集の告知等を行い、広報・誘客活動を支援します。

昨年10月に開設しました「美し国おこし・三重」サポーターズクラブにおいて、本取組の趣旨に賛同し、応援していただける県内外の皆さんに

引き続き登録の呼びかけを行うとともに、パートナーグループとサポーターとの協働、連携を進めます。

また、地域や社会への貢献活動に関心のある企業や地域との連携を進める大学などを対象に、地域づくりの担い手やサポーターのネットワークづくりを進めます。

#### (7) 財政的支援

パートナーグループが、地域に貢献する収益事業や社会企業化をめざす等、活動の持続性を高め、地域に貢献しながら安定した活動を維持できる取組として認定されたプロジェクトに係る初期投資に対して支援します。

また、今年度は、市町が重点分野と位置付け、自立・持続に向けた課題を有するもので、市町を中心として地域の多様な主体が参画（パートナーグループの参画を必須とします。）して実行委員会を構成し、その解決に向けた仕組みづくりを行うモデル的な取組に対して、財政的支援を行います。

#### (8) 成果発表・交流会

1年間の取組を発表し合い、取組2年目を総括するとともに、次年度以降の活動の抱負を語り合う交流会を開催します。

県内全域にわたってのパートナーグループ間相互の交流・連携を促進するとともに、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組の情報発信の機会とすることを目的とします。

【時期】平成23年2～3月頃

【場所】県内大型施設

【参加者】パートナーグループ、県内外から1,000人規模を想定

### 4 広報宣伝・活動促進

- ① 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組を通じて、シンボルマークやマスコットキャラクターを用いて情報発信力を高め、取組全体の認知・理解促進を図ります。
- ② 地域での「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」活動（個々のパートナーグループの取組）の認知促進について、個々のパートナーグループに焦点をあてた情報発信を各種媒体を通じて行います。
- ③ テーマに基づき全県的に取り組む<sup>うま</sup>美し国おこしを準備過程から、タイミングを捉え積極的な情報発信を行います。
- ④ 地域ごと、マスコミ媒体ごとの特性に応じて、取組を支援いただけるよう理解を求め、情報提供や取材依頼を行います。
- ⑤ パートナーグループが自ら積極的に情報を発信する機運を高めるとともに、地域の皆さんが地域のことを情報発信しようとする取組との連携を図ります。

#### 【媒体計画例】

- ア 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」だより、座談会だより「あむあむ」の発行
- イ 「県政だより」への定期的な取組状況等の掲載



- ウ 三重テレビによる定期的な取組状況等のお知らせ
- エ 地域雑誌への取組の掲載 など

#### (1) 県内大規模イベントとの連携

##### ① 「県民の日」記念事業

「県民の日」記念事業において、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」のマスコットキャラクター最優秀賞受賞者の表彰式を行い、本取組のPRを行うとともに、物販エリアへの出展を斡旋し、パートナーグループの活動の成果を県民の皆さんに披露する場を提供し、活動の自立・持続性を高める一助とします。

##### ② その他の大規模イベント

全国的発信力を持つ大規模イベントと連動することにより、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の効果的な広報宣伝等につなげます。

##### 【連携を行う予定の大規模イベント】

- ア 日本スポーツマスターズ2010三重大会
- イ 第9回全国グリーン・ツーリズムネットワーク大会（仮称）
- ウ リーディング産業展みえ 2010
- エ 子育て応援！わくわくフェスタ
- オ 第4回<sup>うま</sup>美し国三重市町対抗駅伝

#### 6 目標と評価検証・記録

- ① 別紙のとおり、全体指標及び個別の取組指標とそれぞれに対する目標を設定します。
- ② 自立・持続可能な地域づくりのためのしくみ等の評価・検証を行うための記録を行うとともに、記録した成果を情報発信し、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組への参画促進等に生かしていきます。

#### 7 協賛・協力

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」は、多様な主体で推進していく取組であることから、住民の皆さんや団体・企業などの協賛や協力を呼びかけながら進めていきます。

#### 8 平成23年度実施計画策定

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の着実な推進のために、平成23年度の実施計画を策定します。

## 【全体指標と目標の設定】

- ① 地域への愛着度 71%以上
- ② パートナーグループの活動充実・満足度  
この取組に参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度 70%以上
- ③ 集客・交流者数  
三重県における観光レクリエーション入込客数 3,400万人

## 【個別の取組指標と目標の設定】

- ① 自発的な地域づくりのグループの発掘、育成  
パートナーグループとして新規に登録されたグループ数 200グループ
- ② 自立性・持続性を高めるしくみづくり  
自立・持続のしくみの構築数（中間支援組織・機能） 3件
- ③ 新たなイベントスタイルによる地域力の結集と成果の情報発信  
ア) ネットワーク構築数 600グループ  
イ) 地域活動参加率 20%  
※三重県が実施する「一万人アンケート調査」による地域の活動への参加率  
(基準年:2008年(平成20年) 15.5%)
- ④ その他の個別の取組指標と目標の設定  
座談会開催数 350回

## 平成22年度収支予算(案)

### 1 収入の部

(単位：千円)

項	目	予算額	摘要
負担金	負担金	175,566	【内訳】 三重県 175,566
	「美し国おこし・三重」地域プロジェクト支援事業費負担金	0	【内訳】 財政的支援について負担金方式を採用する市町
雑入	雑入	0	【内訳】 預金利息
寄附金	寄附金	0	【内訳】 寄附金
計		175,566	

平成22年度収支予算(案)

2 支出の部

(単位：千円)

項	目	予算額	摘要
総務費		31,487	
	総務費	9,073	事務局経費
	企画運営費	22,414	実行委員会の開催、基本計画の策定等に要する経費 【内訳】 実行委員会開催(2回) 328 幹事会開催(3回) 274 企画委員会開催(20回) 2,195 総合プロデューサーの配置 14,567 平成22年度実施計画策定調査委託費 4,000 市民プロデューサー地域限定実証事業 1,050
事業費		144,079	
	育成支援費	28,628	パートナーグループが自立・持続できるよう人材育成・機能強化、他グループとの交流・連携促進に要する経費 【内訳】 「ファシリテーション」研修 2,991 「広報・情報発信」研修 2,778 専門家派遣 9,335 グループ間交流・連携促進(ネットワークコーディネーター)等 9,932 成果発表・交流会 3,582
	地域支援費	90,451	地域での「美し国おこし」の推進に要する経費 【内訳】 地域担当プロデューサーの配置(3名)等 27,783 拡大座談会・座談会 1,318 パートナーグループ支援情報システム 1,350 テーマプロジェクト 20,000 パートナーグループに対する財政支援(80グループ想定) 30,000 市町が参画した実行委員会に対する財政支援(モデル的事業) 10,000
	広報宣伝費	25,000	「美し国おこし・三重」への関心の喚起・参加の促進、パートナーグループの活動の宣伝の要する経費 【内訳】 テーマプロジェクト情報発信 4,200 ホームページ運用(動画画面对応) 1,907 啓発等用グッズ・パンフレット等作成 11,475 雑誌・新聞掲載費 3,360 TV・CATV編集、放送 3,733 その他(名刺台紙、封筒作成)等 325
計		175,566	

※支出の部における各項目間の予算流用は可とする。



「美しく国おこし・三重」  
平成21年度プロデュース業務  
年間業務活動報告書

平成22年 3月10日

有限会社 ランダアソシエイツ



「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」平成21年度プロデュース業務  
年間業務活動報告書

\*数値は平成22年2月末現在の数値

1 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」全体の事業推進

(1) 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組の総合的なコーディネート

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」は、6年間にわたり三重県全域で、地域をより良くしていこうとする住民の皆さんによる自発的な地域づくりの活動を総合的に支援していこうとする取組であることから、住民グループとの対話に最も注力して活動しました。

① 住民グループとの対話

今年度は、スタート年としてまず、地域づくりに関係する住民のグループの方々との「対話の場づくり」を進め、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」のめざすところを訴え、グループの活動との関係づくりをコーディネートしてきました。まずは、グループの取組の現状や課題などについてヒアリングし、グループの目標を把握。目標実現のために必要な活動について意見交換を行い、パートナーグループ登録後の各種のサポートメニューの紹介、必要な情報提供や人材の紹介などを行ってまいりました。あわせて、どのような分野で支援やサポートのニーズが高いのかの把握も進め、サポートメニューの改善提案につなげていくとともに、地域づくり活動の傾向を把握し、次年度以降の「テーマプロジェクト」の企画にあたっての基礎情報を収集しました。

② 関係者間の連携コーディネート

「地域づくり」の具体的取組には、農林水産業をはじめとする各種の地場産業振興や地域資源を生かした商品の開発・販売をめざすものから、伝統行事や伝統工芸を継承することで地域の宝を守ろうとする取組、地域固有の歴史や文化に焦点をあて地域の誇りを取り戻そうとする取組、さらには障がい者と分け隔てなく暮らせるよう雇用や社会参加の壁を取り除こうとする取組など多種多様な活動があります。

これら多分野のパートナーグループの活動を効果的にフォローするために、暮らしに密接にかかわる分野を網羅する県庁各部局との連携や県内各界の代表により構成される実行委員会の構成委員の方々との連携が求められます。今年度、県庁各部局との意見交換などを行いましたが、まだ十分とはいえず、県庁内各部局、実行委員会各構成委員との連携が、早急に取り組むべき課題として挙げられます。



③ 構成する事業間の連携コーディネート

スタート年として一連のオープニング事業を展開していく上で、地域づくりを「対話する」大会（オープニング I）を県内各地で開催しましたが、その行事に「ファシリテーション研修」の受講修了者の参加を組み入れる等事業間の連携を推進していきました。

(2) 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組に係る助言・説明

取組の推進にあたり、実行委員会並びに関係機関と下記の会合を行いました。

① 実行委員会への出席・説明

実行委員会及び実行委員会幹事会において、取組の進捗状況を説明するとともに、委員からの意見や助言に基づき、その後の対応を進めていきました。企画委員会においては、今年度の取組の柱でもあるキックオフプロジェクトの認定について、プロデューサーユニットが作成した検討資料をもとに議論を重ねていただきました。

- 実行委員会 1回（6月5日）
- 実行委員会幹事会 2回（5月27日、10月21日）
- 実行委員会企画委員会 4回（6月16日、7月3日、8月5日、9月29日）

② 事務局との会合

4月18日に開催したオープニング行事の準備から始まり、地域事務所との打ち合わせを含め、緊密に打ち合わせを行いました。

③ 市町との意見交換

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の具体的取組の進め方について、地域での合同説明会ならびに市町の担当部局と意見交換を行いました。

■ 開催回数：33回

（4月8回／5月2回／6月1回／7月なし／8月4回／9月1回／10月1回／11月7回／12月2回／1月5回／2月2回）

各市町の対応については、市町の規模や状況の相違で、取り組み方にさまざまなタイプがありますが、テーマを決めて公募型の座談会を連続的に開催する、市民活動センターがリーダーシップを発揮する、中山間地対策の施策と連動する、など市町独自の取組も見受けられるようになってきました。

今後は、各市町の対応状況の情報共有を進めることで、各市町の施策に沿った取組方針が明確になるようコーディネートを進め、一層市町との信頼関係の醸成に努めていきます。

#### ④ 県内気運の醸成

気運の醸成に関しては、560回を超える座談会や昨年12月からの県内5地域での「対話する」大会などの開催、さらに県内での大型イベントとの連携（オープニングⅢ）をとおして、徐々に認知度は広がっていると思われま

す。しかしながら、一般の県民の皆さんに対する気運の醸成は、これからが正念場で、幅広い年代に親しみを持って取組を認知してもらい役割を果たすマスコットキャラクターの活用や県内各地のパートナーグループが連携して実施するテーマプロジェクトの展開などをとおして、一人でも多くの県民の皆さんに対する取組の周知を図っていきます。

## 2 パートナーグループへの支援

### (1) 座談会の周知

「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組の内容をわかりやすくまとめた「オープニング手帳」の制作を助言。完成後は、さまざまな機会をとおして説明用のツールとして活用し、座談会の周知に努めました。

### (2) 座談会の運営・ファシリテート

#### ■ 座談会、意見交換会の開催：569回

座談会の開催形態については、公募などによる複数のグループの出席による一般座談会と個別グループ単独で行う個別座談会に大別されてきました。回数に関しては、個別座談会の割合が圧倒的に高く、必然的に開催回数が当初想定より大幅に増えたことから、対応する体制が追いつかず、パートナーグループの不満につながった点も見受けられました。

プロデューサーユニットの体制を部分的に拡充すると同時に、公募型座談会の拡充、個別座談会を同日に集中的に開催するなどの効率的な座談会運営をさらに進める必要があります。

座談会の進め方についても、グループの活動過程や状況に応じ、ワークシートを活用したグループワークを行うなど、対応を工夫していきます。

### (3) パートナーグループの立ち上げ支援

#### ■ パートナーグループ登録数：132グループ

座談会での対話を通じ、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」の取組に興味を持っていただいたグループにパートナーグループ登録を勧めていきました。

既存の活動グループに関しては、さらなる活動の進展を具体的に話し合い、それを実現するためにパートナーグループに登録していただけるよう説明・意見交換を進めました。

新規に活動を開始する、または活動は行っているが、これを契機にグループを立ち上げるなどの座談会参加者については、グループの目標やグループ運営の課題について意見交換し、パートナーグループの立ち上げを進めました。

登録後のグループに関しては、個別座談会をとおして課題の解決につながる方策の助言や専門家派遣、ネットワーク化支援など各種サポートメニューについて意見交換を進め、個別に対応を進めていきました。

今年度は、市町との信頼醸成を優先し、市町の紹介や推薦によるグループを中心にパートナーグループ立ち上げ支援を進めてきた結果、既存グループが大半という現状ですが、今後は市町とも連携調整を重ねながら新規のグループの発掘やパートナーグループ立ち上げ支援を進めていきます。

#### (4) パートナーグループの登録にあたっての助言

市町において受理された登録申請に関して、全ての申請書にパートナーグループ登録に際しての意見を記述しました。現状の課題を踏まえつつ、登録後の活動の方向性や発展の可能性などについて助言を行いました。

### 3 プロジェクト企画に向けた支援、説明

パートナーグループの活動が、公共性や社会貢献性をもって継続していく仕組みを取り入れることで、将来的に自立・持続可能となる事業の企画等にあたって、市町と連携して下記の財政的支援を行いました。

- 乱歩蔵びらきの会（上演活動のためのテント購入）
- 桑名の千羽鶴を広める会（ホームページ制作費、外国人向け教材製作等）
- 下河内の里山を守る会（物販施設における加工設備）
- 手づくり工房ワイワイ（手作り商品制作のためのマシン）

このほか、プロジェクト企画の支援を複数のパートナーグループに対して継続中です。

自立・持続可能な活動のために、初期投資部分に限定し、期間中1回に限られる財政的支援制度であるため、実行委員会、市町、パートナーグループが一緒になって、活動内容や将来の展開について深く考える契機となり、パートナーグループの意識が高まりました。

## 4 担い手の育成と支援

### (1) 人材育成

「ファシリテーション研修」「広報情報発信研修」の実施にあたり、研修の構成や使用するテキストのポイントについて受託事業者に助言を行いました。

「ファシリテーション研修」においては、研修中に実際の座談会に進行のアシスト役としての参加や、修了後の「対話する」大会等でのファシリテーター役を担うなど、実践の場を経験していただきました。

「広報情報発信研修」では、修了後、「成果発表・交流会」の様子を実際に取材・情報発信していく予定でしたが、行事自体の中止により実現までには至りませんでした。

研修は、事後のアンケート結果からも、概ね好評であったほか、事前に知っていれば参加したという意見もあり、告知のダイミ<sup>ン</sup>グを早めにするなど周知期間を充分取ることが必要だと思われ<sup>ま</sup>す。また、研修終了後にパートナーグループ登録した人には機会がないのか、という意見もあり、3カ年にわたり9カ所で実施後、対応を検討する必要があると思われ<sup>ま</sup>す。

### (2) グループ育成

市町における拡大座談会、地域ごとの「対話する」大会などをつうじ、パートナーグループ同士の交流の場を設け、グループの育成を進めました。上記以外にも個別のパートナーグループ同士の会合も必要に応じ開催しました。

#### ■ 市町における拡大座談会

- ・紀宝町拡大座談会（6月25日）
- ・志摩市拡大座談会（10月15日）
- ・伊勢市拡大座談会（11月4日）
- ・多気町拡大座談会（11月8日）
- ・桑名市、木曾岬町合同拡大座談会（11月22日）
- ・尾鷲市、紀北町合同拡大座談会（11月29日）

#### ■ 「対話する」大会

- ・項目6「美<sup>うま</sup>し国おこし・三重」オープニング（平成21年）参照

#### ■ パートナーグループ連携座談会

- ・アクティブファーマーズ、志摩を元気にしよう会（10月26日／2グループ参加）
- ・紀北・尾鷲合同座談会（11月6日／2グループ参加）
- ・紀北・尾鷲合同座談会（1月13日／3グループ参加）

## ■ 個別テーマでの拡大座談会

・就農者獲得拡大座談会（アクティブファーマーズ／2月7日）

### (3) 中間支援組織創設・機能拡充の活動

県内各地の農水産物や特産品を集めて、商店街活性化も睨みながら、新たな販路を開拓する取組を行うグループやパートナーグループの活動現場をつないでツアーを主催するグループなど、中間支援的な活動を行うグループに対して活動の周知に協力しつつ、将来中間支援的な活動を展開する方策について個別に意見交換を重ねました。今後は、これら中間支援的な活動をめざすパートナーグループに対して、通常のパートナーグループに対する支援とは別枠の支援体制を検討する必要があると考えます。

### (4) 担い手の支援

登録されたパートナーグループに対し、専門家派遣、広報・誘客支援、ネットワーク化支援など、サポートメニューに基づいた支援活動を進めていきました。今後は、効果的なフォローができるよう、複数の支援メニューを組み合わせる案件も出てくると考えられます。

#### ○ 専門家派遣

- ぽっかぽかの会（レシピ開発の専門家派遣／障がい者雇用の専門家）
- たき環境クラブ“竹遊号”（竹植物生態研究の専門家）
- 三重・とらいあぐる（食肉加工の専門家）
- 下河内の里山を守る会（食品衛生管理の専門家）
- 桑名の千羽鶴を広める会（海外NGO、国際交流の専門家）
- 「ひとのわコンサート」実行委員会（イベント企画運営の専門家）

提供されたレシピで新商品の販売をしていこうという動きが出たり、竹をテーマに関連するパートナーグループが連携していこうという動きに繋がってきています。今後も共通するテーマを持つパートナーグループが連携して専門家派遣を行う形式が、ネットワークづくりが同時に行えるという点で有効だと考えます。

#### ○ 広報・誘客支援

実行委員会の各種媒体制作にあたって、受託事業者に助言を行いました。各パートナーグループのイベント開催情報などを、関連する他のグループへ紹介するなど、グループ間の情報流通に努めました。

今後は、テーマに基づく連携した取組が、活発になると思われるので、マスコミ各社・観光関連事業者との事前の情報交換の仕組みを検討する必要があると考えます。

#### ○ネットワーク化支援

地域や社会貢献活動に関心のある企業、大学、団塊の世代などによる地域づくりの担い手やサポーターのネットワークづくりの仕組みとして、「<sup>うま</sup>美し国おこし サポーターズクラブ」の立ち上げに際し、サポートの種別に関して助言しました。

また、ネットワークコーディネーターが中心となり、パートナーグループの必要性に応じて、連携先を紹介、仲介コーディネートを進めていきました。

#### ○財政的支援

今年度4件のプロジェクト化支援にともない、パートナーグループが作成するプロジェクト企画について、事業の継続性、安定性、成長性などについて助言しました。(項目3に記載)

### 5 テーマに基づき全県的に取り組む<sup>うま</sup>美し国おこし

実行委員会企画委員会において、テーマプロジェクトについて議論を進めていただきましたが、それに伴う資料の作成ならびに説明を行いました。また、具体的なパートナーグループの活動状況を報告するとともに、実現性の高いプロジェクトの可能性について企画委員会に、助言を行いました。

今後は、テーマに基づき複数のパートナーグループが連携して取り組む事業をテーマプロジェクト化し、関係市町、関係県部局、実行委員会関連委員などと連携しながら、タイムリーに事業を進めていく手順の確立が必要です。

### 6 「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」オープニング(平成21年)

#### (1)【オープニングI】地域づくりを「対話する」大会

平成21年4月18日に開催する「県民の日」記念事業におけるオープニング宣言(会場:総合文化センター)等に関して、企画の構成提案をはじめ、準備・運営の助言ならびに当日の進行の指示を行いました。

また、県内数地域で開催する、拡大座談会(ワールドカフェ方式)の準備、当日の運営管理を行いました。

- 「対話する」大会・玉城会場(12月20日)
- 「対話する」大会・津会場(1月23日)
- 「対話する」大会・桑名会場(1月30日)

- 「対話する」大会・伊賀会場（2月6日）
- 「対話する」大会・尾鷲会場（2月14日）

複数市町、地域事務所合同で行った「対話する」大会は、初年度ということもあり、市町における拡大座談会開催等と開催日程が詰まりかなりの負担をかけての開催となりました。

近隣市町の住民グループ同士の交流に繋がるので、引き続き開催を考えると地域がある一方で、開催の意義より負担感を感じる地域もあり、今後は、各地域の要望に応じ、開催の支援を行うことが必要になると思われます。

## (2) 【オープニングⅡ】地域づくりを「実践する」場

### ・キックオフプロジェクト

現状のパートナーグループの活動の中から、数十の対象を選び、企画素案を作成し、4回にわたる企画委員会において、提示、説明してきました。

下記の10のプロジェクトを認定いただき、地域担当プロデューサーを中心にプロジェクトの推進に関して、助言を行いました。

- 桑名の千羽鶴（連鶴）プロジェクト  
（桑名の千羽鶴を広める会－桑名市ほか）
- 地産地消・福祉のまちづくり・商店街活性化連携プロジェクト  
（三重・とらいあんぐる－四日市市）
- 住民カフェ交流プロジェクト  
（ぽっかぽかの会－亀山市）
- 手作り甲冑プロジェクト  
（NPO 法人 三重ドリームクラブ－津市）
- たき環境くらぶ“竹遊号”プロジェクト  
（たき環境くらぶ“竹遊号”－多気町）
- 参宮ブランド「擬革紙」復興・振興プロジェクト  
（参宮ブランド「擬革紙」の会－玉城町 ほか）
- 地域の文化人をテーマにした地域づくりプロジェクト  
（乱歩蔵びらきの会－名張市）
- 下河内の里山を守るプロジェクト  
（下河内の里山を守る会－紀北町）
- 東紀州の農業を守れ 侍プロジェクト／七人の農業人獲得大作戦  
（アクティブファーマーズ－紀宝町ほか）
- 医食同源・・・三重の生物資源利活用プロジェクト  
（医食同源みえ－伊勢市ほか）

取組の方向性や内容もそれぞれ特徴的なモデルとなる活動であることから、映像化、冊子化することを提案しました。これらを、情報発信ツールとするとともに、今後同分野の取組に関しての参考として積極的に活用していきます。

#### ・成果発表・交流会

今年度のパートナーグループの活動の成果発表と交流会を兼ねた「成果発表・交流会」は、チリ地震にともなう津波警報のため、中止となりましたが、全体の動きをパートナーグループに伝えるために、登録パートナーグループすべての紹介ボードの作成を助言しました。

出席のパートナーグループからは、時期を変えて実施してほしい旨の意見が多くあり、全県的な成果発表や交流の場が必要と思われま

す。これから、数ヶ月の間、キックオフプロジェクト以外にも活動の活発なパートナーグループが出てくると予想されるので、活動発表の場を拡充するなど、進行や構成を再検討する必要があります。

#### (3)【オープニングⅢ】同時期開催の県・市町などの大規模イベントとの連携

平成21年度に展開される県・市町などの大規模イベントとの連携にあたって、連携先のイベントの状況に応じ、ブース出展によるPR手法や、ワールドカフェ方式で交流促進をめざす運営方式などの助言を行いました。

#### 7 広報宣伝・活動促進

実行委員会で制作する各種媒体や提供する広告等、また横断幕やのぼり旗、ティッシュなどの広報配布物など広報制作物に関して助言しました。

また、認知を促進するための手法、発信力を高める手法として媒体各社と個別に対応できる専門家の起用など広報の体制について事務局と協議を重ね、助言を行いました。

活動促進に関しては、個別のテーマにもとづく誘客、販売など、パートナーグループが一定数、連携がはかられた段階で、県庁関連部局や関連業界に対して呼びかけていくことになると考えられます。

#### 8 目標と評価検証、記録

座談会や拡大座談会、さらには県内のイベントにブース参加した際のアンケート実施を助言し、評価材料としました。この結果を、次年度以降の取組に反映していきたいと考えます。

記録に関しては、昨年夏より、パートナーグループへの対応の迅速化、情報共有の効率化を図るため、顧客管理システムの導入を提案し、平成



22年1月から試行することとなり、システムでの記録に移行しました。今後、パートナーグループへの支援を効率的に行うことが期待できます。

## 9 協賛・協力

企業との協賛・協力に関し、ビーチクリーンカーの提供協力を関係パートナーグループに紹介するなど、企業との関係構築を推進してきました。

また、「<sup>うま</sup>美し国おこし・三重」を応援しています、というロゴ使用にあわせた寄付の仕組みに関して助言を行いました。また、参画社数が少ないので、周知活動ならびに参画の依頼活動を進めていく必要があります。

また、<sup>うま</sup>美し国おこしサポーターズクラブ制度の検討に際し、事務局と協議を重ねました。今後はより多くのサポーターの獲得に努め、パートナーグループの諸活動やテーマプロジェクトへの参画を促していきます。

## 10 その他、基本構想、基本計画及び平成21年度実施計画の実現のために必要な業務

直接の業務以外に、日程調整できる場所は、県内各地のお祭りや種々の行事に参加し、また、東紀州をはじめ、生産者の方々や地域づくりのキーパーソンの方々との意見交換・交流を進めていきました。

(別紙総括表参照)